

現行 (令和6年)	改訂版 (令和7年)	改定理由
<p style="text-align: center;">土木工事施工管理基準</p> <p>この土木工事施工管理基準(以下、「管理基準」とする。)は、「土木工事共通仕様書(案) [R6.3]」、第1編1-1-24「施工管理」に規定する土木工事の施工管理及び規格値の基準を定めたものである。</p> <p>7. その他 (1) 工事写真 受注者は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を写真管理基準(案)により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督職員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。</p> <p>(2) 情報化施工 10,000㎡以上の土工の出来形管理については、「情報化施工技術の使用原則化について」(平成25年3月15日付け国官技第291号、国総公第133号)による。ただし、「T Sを用いた出来形管理要領(土工編)」は「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編」に読み替えるものとし、「T Sを用いた出来形管理の監督・検査要領(河川土工編)」及び「T Sを用いた出来形管理の監督・検査要領(道路土工編)」は「T S等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)」に読み替えるものとする。</p>	<p style="text-align: center;">土木工事施工管理基準</p> <p>この土木工事施工管理基準(以下、「管理基準」とする。)は、「土木工事共通仕様書(案) [R7.3]」、第1編1-1-26「施工管理」に規定する土木工事の施工管理及び規格値の基準を定めたものである。</p> <p>7. その他 (1) 工事写真 受注者は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を写真管理基準(案)により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督職員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。</p> <p>(2) 情報化施工 10,000㎡以上の土工の出来形管理については、「情報化施工技術の使用原則化について」(平成25年3月15日付け国官技第291号、国総公第133号)による。ただし、「T Sを用いた出来形管理要領(土工編)」は「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)第2編 土工編」に読み替えるものとし、「T Sを用いた出来形管理の監督・検査要領(河川土工編)」及び「T Sを用いた出来形管理の監督・検査要領(道路土工編)」は「T S等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)」に読み替えるものとする。</p>	<p>共仕の年度と項番</p> <p>諸基準類との整合 (2025/1/28)</p>

現行(令和6年)							改訂版(令和7年)							改定理由
1 出来形管理基準及び規格値(案) 目次							1 出来形管理基準及び規格値(案) 目次							
編、章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁	編、章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁	
第3編 土木工事共通編							第3編 土木工事共通編							
第2章 一般施工							第2章 一般施工							
第6節 一般舗装工	3-2-6-9	8	排水性舗装工	加熱アスファルト安定処理工(面管理の場合)		I - 59	第6節 一般舗装工	3-2-6-9	8	排水性舗装工	加熱アスファルト安定処理工(面管理の場合)		I - 60	ページ番号
		9	排水性舗装工	基層工		I - 60			9	排水性舗装工	基層工		I - 61	ページ番号
第7節 地盤改良工	3-2-7-9	2	固結工	スラリー攪拌工「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)第8編 固結工(スラリー攪拌工)編」による管理の場合		I - 107	第7節 地盤改良工	3-2-7-9	2	固結工	スラリー攪拌工「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)第8編 固結工(スラリー攪拌工)・パーチカルドレン工編」による管理の場合		I - 107	諸基準類との整合
第10編 道路編							第10編 道路編							
第16章 道路修繕							第16章 道路修繕							
第18節 落石雪害防止工	10-16-18-6		防雪柵工		10-1-11-6防雪柵工	I - 164	第18節 落石雪害防止工	10-16-18-6		防雪柵工		10-1-11-6防雪柵工	I - 163	ページ番号
	10-16-18-7		雪崩予防柵工		10-1-11-7雪崩予防柵工	I - 163		10-16-18-7		雪崩予防柵工		10-1-11-7雪崩予防柵工	I - 164	ページ番号

現行(令和6年)								改訂版(令和7年)								改定理由	
品質管理基準及び規格値(案)								品質管理基準及び規格値(案)									
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験時期・頻度	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験時期・頻度	摘要	試験成績表等による確認
1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリート・コンクリート・コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	施工	必須	スラップ試験	JIS A 1101	スラップ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スラップ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm スラップ2.5cm：許容差±1.0cm	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20㎡～150㎡ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。ただし、道路橋鉄筋コンクリート床版にレディーミクスドコンクリートを用いる場合は原則として全運搬車測定を行う。 ・道路橋床版の場合、全運搬車試験を行うが、スラップ試験の結果が安定し良好な場合はその後スラップ試験の頻度について監督職員と協議し低減することができる。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクスドコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50㎡以上の場合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、非簡基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、面取工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及びトンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)		1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリート・コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	施工	必須	スラップ試験	JIS A 1101	スラップ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スラップ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm スラップ2.5cm：許容差±1.0cm	・荷卸し時 1回/日以上、または構造物の重要度と工事の規模に応じて20㎡～150㎡ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。ただし、道路橋鉄筋コンクリート床版にレディーミクスドコンクリートを用いる場合は原則として全運搬車測定を行う。 ・道路橋床版の場合、全運搬車試験を行うが、スラップ試験の結果が安定し良好な場合はその後スラップ試験の頻度について監督職員と協議し低減することができる。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクスドコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50㎡以上の場合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、非簡基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、面取工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及びトンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)	試験修正
1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリート・コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	施工	必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験結果の平均値)	・荷卸し時または、工場出荷時に運搬車から採取した試料 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20㎡～150㎡ごとに1回、 なお、テストピースは打設場所から採取し、1回につき6個(α7~3個、α28~3個)とする。 ・早乾セメントを使用する場合には、必要に応じて1回につき3個(α3)を追加で採取する。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクスドコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50㎡以上の場合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、非簡基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、面取工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及びトンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)		1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリート・コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	施工	必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験結果の平均値)	・荷卸し時または、工場出荷時に運搬車から採取した試料 1回/日以上、または構造物の重要度と工事の規模に応じて20㎡～150㎡ごとに1回、 なお、テストピースの採取は、1回につき6個(α7~3個、α28~3個)とする。 ・早乾セメントを使用する場合には、必要に応じて1回につき3個(α3)を追加で採取する。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクスドコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50㎡以上の場合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、非簡基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、面取工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及びトンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)	試験修正
1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリート・コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	施工	必須	空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20㎡～150㎡ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクスドコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50㎡以上の場合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、非簡基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、面取工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及びトンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)		1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリート・コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	施工	必須	空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)	・荷卸し時 1回/日以上、または構造物の重要度と工事の規模に応じて20㎡～150㎡ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクスドコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50㎡以上の場合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、非簡基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、面取工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及びトンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)	試験修正
6 既製杭工	材料	必須	外観検査(鋼管杭・コンクリート杭・H鋼杭)	目視	目視により使用上有害な欠陥(鋼管杭は変形など、コンクリート杭はひび割れや損傷など)がないこと。	設計図書による。			6 既製杭工	材料	必須	外観検査(鋼管杭・コンクリート杭・H鋼杭)	目視	目視により使用上有害な欠陥(鋼管杭は変形など、コンクリート杭はひび割れや損傷など)がないこと。	設計図書による。		適用範囲の明確化
6 既製杭工	施工	必須	外観検査(鋼管杭)	JIS A 5525	【円周溶接部の目視】 外径700mm未満：許容差2mm以下 外径700mm以上1,016mm以下：許容差3mm以下 外径1,016mmを超え2,000mm以下：許容差4mm以下		・外径700mm未満：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を2mm×以下とする。 ・外径700mm以上1,016mm以下：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を3mm×以下とする。 ・外径1,016mmを超え2,000mm以下：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を4mm×以下とする。		6 既製杭工	施工	必須	外観検査(鋼管杭・コンクリート杭・H鋼杭)	JIS A 5525	【円周溶接部の目視】 外径700mm未満：許容差2mm以下 外径700mm以上1,016mm以下：許容差3mm以下 外径1,016mmを超え2,000mm以下：許容差4mm以下	・外径700mm未満：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を2mm×以下とする。 ・外径700mm以上1,016mm以下：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を3mm×以下とする。 ・外径1,016mmを超え2,000mm以下：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を4mm×以下とする。		適用範囲の明確化
6 既製杭工	施工	必須	鋼管杭・コンクリート杭・H鋼杭の現場溶接浸透探傷試験(溶剤除去性染色浸透探傷試験)	JIS Z 2343-1, 2, 3, 4, 5, 6	割れ及び有害な欠陥がないこと。	原則として全溶接箇所で行う。ただし、施工方法及び施工順序等から全数量の実施が困難な場合は監督員との協議により、現場状況に応じた数量とすることができる。 なお、全溶接箇所の10%以上は、JIS Z 2343-1, 2, 3, 4, 5, 6により定められた認定技術者が行うものとする。 試験箇所は杭の全周とする。			6 既製杭工	施工	必須	鋼管杭(鋼管ソイルセメント杭の鋼管を含む)・コンクリート杭・H鋼杭の現場溶接浸透探傷試験(溶剤除去性染色浸透探傷試験)	JIS Z 2343-1, 2, 3, 4, 5, 6	割れ及び有害な欠陥がないこと。	原則として全溶接箇所で行う。ただし、施工方法及び施工順序等から全数量の実施が困難な場合は監督員との協議により、現場状況に応じた数量とすることができる。 なお、全溶接箇所の10%以上は、JIS Z 2343-1, 2, 3, 4, 5, 6により定められた認定技術者が行うものとする。 試験箇所は杭の全周とする。		適用範囲の明確化

品質管理基準及び規格値 (案)

工 程	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験時期・頻度	備 考	試験成績表等による確認
6 既製杭工	施工	必須	鋼管杭・H鋼杭の現場溶接放射線透過試験	JIS Z 3104	JIS Z 3104の1類から3類であること	原則として溶接20ヶ所毎に1ヶ所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は現場状況に応じた数値とする。 なお、対象箇所では鋼管杭を4方向から透過し、その撮影長は30cm/1方向とする。 (20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶接を20ヶ所施工した毎にその20ヶ所から任意の1ヶ所を試験することである。)		
6 既製杭工	施工	その他	鋼管杭の現場溶接超音波探傷試験	JIS Z 3060	JIS Z 3060の1類から3類であること	原則として溶接20ヶ所毎に1ヶ所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は現場状況に応じた数値とする。 なお、対象箇所では鋼管杭を4方向から探傷し、その探傷長は30cm/1方向とする。 (20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶接を20ヶ所施工した毎にその20ヶ所から任意の1ヶ所を試験することである。)	中継り杭工法等で、放射線透過試験が不可能な場合は、放射線透過試験に替えて超音波探傷試験とすることができる。	
6 既製杭工	施工	その他	鋼管杭・コンクリート杭 (根固め) 水セメント比	比重の測定による水セメント比の推定	設計図書による。 また、設計図書に記載されていない場合は60%~70% (中継り杭工法)、60% (プレボーリング杭工法及び鋼管ソイルセメント杭工法) とする。	試料の採取回数は一様に単杭では30本に1回、継杭では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本とする。		
6 既製杭工	施工	その他	鋼管杭・コンクリート杭 (根固め) セメントミルクの圧縮強度試験 JIS A 1108	設計図書による	セメントミルク工法に用いる根固め液及びびくい周囲定液の圧縮強度試験 JIS A 1108	供試体の採取回数は一様に単杭では30本に1回、継杭では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本とする。 なお、供試体はセメントミルクの供試体の作成方法に従って作成したφ5×10cmの円柱供試体によって求めるものとする。	参考値：20N/㎠	
14 アスファルト舗装	プラント	必須	アスファルト量抽出程度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-218	アスファルト量：±0.9%以内	・中規模以上の工事とは、管理図を画した上での管理が可能な工事 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。 印字記録の場合：全数または抽出・ふるい分け試験 1~2回/日 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を行い、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満 (コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの		
30 覆工コンクリート (NATM)	施工	必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)	・荷削し時または、工場出荷時に運搬車から採取した試料 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20mm~25mmの場合には175kg/㎡、40mmの場合には165kg/㎡を基本とする。		
33 路上再生路盤工	材料	必須	土の粒度試験	JIS A 1204	「舗装再生便覧」参照 表-3.2.9 路上再生路盤用素材の望ましい粒度範囲による	当初及び材料の変化時		
34 路上表層再生工	施工	必須	かさほぐし深さ	「舗装再生便覧」付録-8に準じる。	-0.7cm以内	1,000㎡ごと。		

品質管理基準及び規格値 (案)

工 程	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験時期・頻度	備 考	試験成績表等による確認
6 既製杭工	施工	必須	鋼管杭 (鋼管ソイルセメント杭の鋼管を含む) ・H鋼杭の現場溶接放射線透過試験	JIS Z 3104	JIS Z 3104の1類から3類であること	原則として溶接20ヶ所毎に1ヶ所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は現場状況に応じた数値とする。 なお、対象箇所では鋼管杭を4方向から透過し、その撮影長は30cm/1方向とする。 (20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶接を20ヶ所施工した毎にその20ヶ所から任意の1ヶ所を試験することである。)		
6 既製杭工	施工	その他	鋼管杭 (鋼管ソイルセメント杭の鋼管を含む) の現場溶接超音波探傷試験	JIS Z 3060	JIS Z 3060の1類から3類であること	原則として溶接20ヶ所毎に1ヶ所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は現場状況に応じた数値とする。 なお、対象箇所では鋼管杭を4方向から探傷し、その探傷長は30cm/1方向とする。 (20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶接を20ヶ所施工した毎にその20ヶ所から任意の1ヶ所を試験することである。)	中継り杭工法等で、放射線透過試験が不可能な場合は、放射線透過試験に替えて超音波探傷試験とすることができる。	
6 既製杭工	施工	その他	鋼管杭 (鋼管ソイルセメント杭の鋼管を含む) ・コンクリート杭 (根固め) 水セメント比	比重の測定による水セメント比の推定	設計図書による。 また、設計図書に記載されていない場合は60%~70% (中継り杭工法)、60% (プレボーリング杭工法及び鋼管ソイルセメント杭工法) とする。	試料の採取回数は一様に単杭では30本に1回、継杭では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本とする。		
6 既製杭工	施工	その他	鋼管杭 (鋼管ソイルセメント杭の鋼管を含む) ・コンクリート杭 (根固め) セメントミルクの圧縮強度試験 JIS A 1108	設計図書による	セメントミルク工法に用いる根固め液及びびくい周囲定液の圧縮強度試験 JIS A 1108	供試体の採取回数は一様に単杭では30本に1回、継杭では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本とする。 なお、供試体はセメントミルクの供試体の作成方法に従って作成したφ5×10cmの円柱供試体によって求めるものとする。	参考値：20N/㎠	
14 アスファルト舗装	プラント	必須	アスファルト量抽出程度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-218	アスファルト量：±0.9%以内	・中規模以上の工事とは、管理図を画した上での管理が可能な工事 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。 印字記録の場合：全数または抽出・ふるい分け試験 1~2回/日 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を行い、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満 (コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満) ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの		
30 覆工コンクリート (NATM)	施工	必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)	・荷削し時または、工場出荷時に運搬車から採取した試料 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20mm~25mmの場合には175kg/㎡、40mmの場合には165kg/㎡を基本とする。		
33 路上再生路盤工	材料	必須	土の粒度試験	JIS A 1204	「舗装再生便覧」参照 表-3.2.9 路上再生路盤用素材の目標粒度範囲による	当初及び材料の変化時		
34 路上表層再生工	施工	必須	かさほぐし深さ	「舗装再生便覧」付録-8に準じる。	-0.7cm以内	1,000㎡ごと。		